

BEST BUY
2022

CAR NAVIGATION SYSTEM

presented by カーナビの達人

ケンウッド

MDV-M909HDF

オープン価格(市場推定価格:16万3000円前後)

文=尾澤英彦 〇JVCケンウッド ☎0120-2727-87



ダッシュ埋め込み型のナビとくらべると一段手前に装着されるので、画面はより大きく、操作はよりしやすくなる。

「彩速ナビ」の進化が止まらない

豊富なラインナップのトップモデル

ケンウッドのカーナビは大きく分けて上級モデルのTYPE Mと普及モデルのTYPE S、エントリーモデルのTYPE Lの3種類。その中で今回注目したいのがTYPE Mだ。インダッシュ型とフローティングタイプのふたつの9V型大画面モデルがあり、フローティングモデルがMDV-M909HDF。機械部分をダッシュボードの2DINスペースに装着、9V型のモニターパネルはそこから突き出るように、まさに宙を浮く感じで支えられる。ダッシュボードに2DINスペースがあれば、多くのクルマで9V型大画面が楽しめる、それがフローティングモデルのメリットである(※)。MDV-M909HDFは手動でモニターパネルの角度調整ができるので、日差しが画面に反射して見えにくい時でも、これを使って見えやすい位置に調整できる。これも長所だ。

2022年モデルはここが変わった

ケンウッドのナビは自転車位置精度の高さ、道案内の的確さで評価が高い。それは基本性能が優れているからで、何より他を圧倒するレスポンスのよさがそれを証明している。地図の移動

やスクロール、縮尺の切り換えなどでストレスを感じることはまずないと言ってよい。しかもHDパネルの採用で描画はきわめて高精細。「彩速ナビ」のニックネームは伊達ではないのだ。

再生音楽の音質も抜群にいい。カーナビでハイレゾに真っ先に対応したのはケンウッドなのだが、いいものを求める積極姿勢は2022年モデルでも健在で、今回見るべきものがふたつあった。そのひとつが映像の楽しみ方を広げたワイヤレスミラーリング、もうひとつが最新ドライブレコーダーとの優れた連携。エンタメとセーフティの度合いが格段に高まっている。

ワイヤレスミラーリングとは？

ミラーリングとはPCやスマートフォンの画面を別のモニターでも映し出すことだが、2022年型TYPE Mに採用されたワイヤレスミラーリングではAndroidスマートフォンの映像をナビ画面でも見られるようにした。ワイヤレスだからケーブルを使わずに両者をWi-Fiで繋いでいるところがミソだ。映像はスマホに保存したものでなく、ストリーミング動画配信の映像でもOK。一般的なスマートフォンだと画面サイズは6.7インチ程度だから見られる人数も限られるが、



AndroidスマートフォンとナビをWi-Fi接続してワイヤレスミラーリングを実現。YouTubeや人気の動画配信サービスをナビの大画面で楽しめる。



MDV-M909HDFはケンウッドのナビ連携ドライブレコーダーと組み合わせることで、これまでにない安心機能を手に入れることができる。リアカメラの映像を常時表示するデジタルルームミラー型ドライブレコーダー「DRV-EMN5700」との組み合わせも可能。



彩速ナビと2カメラドライブレコーダー「DRV-MN970」やデジタルルームミラー型ドライブレコーダー「DRV-EMN5700」と連携すれば録画映像にナビの高精度な位置情報を記録することが可能。また録画映像を4倍まで拡大することもできる。

MDV-M909HDFの9V型大画面なら大勢で映像を楽しめるはずだ。

スマホとの連携でできることがもうひとつ。音楽CDのタイトル情報やアルバムの画像を即座に入手して画面表示することができる。情報の提供元が最新コンテンツに対応していれば発売直後の新譜であっても表示可能だ。

ドライブレコーダー連携のメリット

ドライブレコーダーとナビとの連携は珍しいものではないが、その多くはドライブレコーダーが録画した映像をナビの画面で見たり、撮影地点を地図の上に表示する程度だった。MDV-M909HDFをはじめとする2022年型ケンウッド・ナビでは同社のドライブレコーダーと連携することで、録画中の映像でもナビの画面に表示することができる。また、録画済みの映像を再生しながら自車の走行位置や走行軌跡を同時に確認できるのも特徴。これはナビの高精度な自車位置情報をドライブレコーダーでも共有できるようにした賜物で、これにより事故の際など万が一の時でも、きわめて客観性の高い検証データとして利用できるだろう。



※300車種以上に取り付け可能(ケンウッド調べ)

BEST BUY
2022

DRIVE RECORDER

文=生方 聡

ケンウッド DRV-MN970

“彩速ナビ”全対応でスマート連携



高感度CMOSセンサーの搭載により、幅広い視野で高精細かつ鮮明が画像の記録が可能になった。

ドライブレコーダーの操作や録画の再生は、本体の表示部や連携したスマートフォンを使うのが一般的。カーナビの大きな画面が使えたら便利なのに……と思う人は少なくないだろう。そんな希望を叶えてくれるのが、ケンウッドから発売される「DRV-MN970」だ。



逆光やトンネルの出入り口といった明暗差が激しい場所での白飛びや黒つぶれを抑えるHDR機能も前後カメラに採用。

DRV-MN970は、同社の“彩速ナビ”2022年モデルとの連携可能な2カメラドライブレコーダー。本体とフロントカメラ、リアカメラで構成されている。ふたつのカメラとメインユニットを別体にしたセパレートタイプ。またカメラ部は従来モデルに比べて約40%小型化。これにより、ドライバーからの広い視界を確保している。

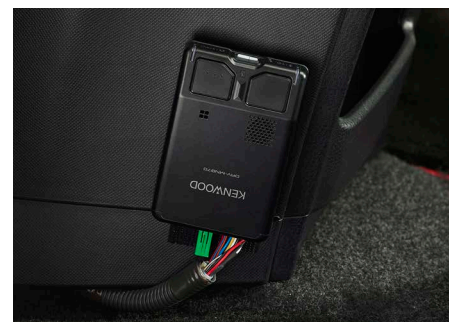
彩速ナビと連携することで、万一の場合にはカーナビの画面を使って録画映像をその場で確認することができるが、それ以外にもさまざまな便利な機能が用意される。たとえば、カーナビが取得する高精度な位置情報や速度情報を利用することで、録画した映像を地図を見ながら確認することが可能だ

カーナビの画面にPinP(ピクチャー・イン・ピクチャー)で、カメラからの映像をリアルタイムで表示させることもできる。また、荷物をたくさん積んで後方が見にくいときや、リヤウィンドーが狭いクルマなどでは、リヤカメラの映像をリアルタイムでカーナビの画面で表示できる「バーチャルルームミラー&サブリアカメラ」が便利。しかも、後方の映像と地図との2画面表示の切り替えも可能である。

録画した映像は、カーナビの大きな画面で確認できるうえ、必要に応じて2倍または4倍に拡大することも可能なので、撮影した車両のナンバ

オープン価格
(市場推定価格:4万4000円前後)

〇JVCケンウッド ☎0120-2727-87



本体とカメラを別体式としたことにより、カメラ部分は従来比約40%の小型化を実現したという。常時録画のほか、手動/イベント記録/駐車録画の計4つの録画モードが備わる。

ーを確認するのに便利だ。なお、SDカードに記録された映像は、専用ビューアソフトを使ってPCで再生することも可能である。

もちろん、ドライブレコーダーとして高い性能を備えている。前後カメラはともに、水平約128度、垂直約70度の広い視野を誇る高感度CMOSセンサーを採用。フルハイビジョン画質での前後同時録画が可能である。HDR機能により明暗差が大きな環境でも「白とび」や「黒つぶれ」を抑えることができる。LED信号にも対応し、撮影コマ数を調整することで無点灯記録を防いでいる。駐車中のイベントを記録する駐車録画機能も備えている。

ケンウッドの最新カーナビの購入を検討しているなら、カーナビ連携型ドライブレコーダーのDRV-MN970の同時購入をぜひお勧めしたい。

Spec
撮影画素 フロント:1920×1080(フルHD)、リヤ:1920×1080(フルHD)
撮像素子 フロント:1/2.7型カラーCMOS(207万画素)、リヤ:1/2.7型カラーCMOS(207万画素)
レンズ画角 フロント:水平128度、垂直70度、対角138度、リヤ:水平128度、垂直70度、対角138度
フレームレート フロント30fps リヤ30fps
後方録画 あり 駐車監視 あり(選り非対応) HDR あり
モニター 彩速ナビとの連携
記録媒体 microSDHC/SDXCカード(32GB microSDHC同梱)